【グループワーク（Bグループ）】

（コーディネーター 前田 氏）

・今回配布した「新嵐山スカイパーク自分ごと化会議からの提案素案（案）」については、委員の発言を記載した議事録やアンケートから抽出し、まとめたものである。今回の提案素案は、みなさんの意見が非常に反映された内容となっている。

今日は、提案素案の感想を述べてもらい、皆さんからの意見が多かった部分を少し掘り下げていきながら、提案書に反映したい。

・不足している部分や盛り込めていない部分は意見提出シートに記載してほしい。それが、再度提案書にフィードバックされることになる。違うカテゴリーで提案した方が良い場合には、項目が増えることもある。

・前回は、新嵐山を利用するにあたり、宿泊料を題材に議論した。皆さんの意見は、価値と金額のバランスが合っていないというものであった。金額に見合うように新嵐山の価値をあげていくしかない、宿泊というサービスを根本から見直すべき（グランピングを補完する宿泊施設）という意見もあった。

・いろいろな意見が出たが、誤解があるという話もあった。芽室の野菜をもっと使った方が良いという意見について、実態を確認すると既に取り組んでいた。

つまり、情報がみなさんに上手く共有されていないことがわかった。

自分ごと化会議を通して、みんなで考え、誤解のないように進めていきたいというのが前回のまとめである。

（委員１）

・自分が考えていることと違った角度からの提案もあり、色々と参考になった。自分に何ができるかを考えた時、スキーなどはできないので孫たちを連れて食事などで一日のんびり過ごせる場所であれば良いと思った。

（コーディネーター 前田 氏）

・新嵐山までの移動手段がなく、町内には利用したいと思っている潜在層はいると思うという話を自身の経験からも委員は繰り返しされていた。この部分については、提案２で触れている。

（委員２）

・提案した内容が町の計画にどこまで反映されるのか、気になるところである。

（コーディネーター 前田 氏）

・委員は細かいアイデアまで、たくさん提案されている。全てが実現できるかは別として、住民からアイデアを聞くという機会があまりなかったので、これを機に出されたアイデアを取り入れていければ良いし、実現できなくても粘り強く言い続けてほしいと思う。

（委員３）

・提案４のその他の意見のキッズランドは、旧パトロール小屋（管理棟）を利活用できないかと思う意見したものである。現在のドッグランは人気があるが、有料ではなく、無料のままで、大型のビニールハウスを設置し、全天候型で犬と一緒に食事ができるドックパークのようなものにすれば、もっと人が集まるのではと思った。

（コーディネーター 前田 氏）

・時代も変わり、ペットと一緒に旅行しながら、施設を楽しむことがスタンダードというか日常になっている。時代に合わせて施設が変わっていくことの必要性を感じた。この点についても提案書には盛り込まれていると思う。

（委員４）

・提案書に示されている内容は良いと思う。書かれている内容が、全て実現できれば良いものになると思う。

・子どもたちを集客するのに噴水の設置は必要と感じていた。また、スキー場は、子どもの教育施設としての存続には賛成である。

（コーディネーター 前田 氏）

・それほどド派手なことをやらなくても、地元の子どもたちの教育に使える施設になれば良いという思いが強かったと感じている。

・安全面に関しては、しっかりケアしながら、高額な維持管理は求めていないという理解である。

（委員５）

・スキーの印象が強いので、スキーの新嵐山もずっと残っていってほしいと思う。ただし、夏の新嵐山も子どもが喜んでいたので、今後も色々なことにチャレンジしてほしいと思う。

・提案１について、運営を民間に委託している状況で、住民がどのように関わっていくのかが、イメージしづらい。住民としての関わりで思い浮かぶのは、芽室公園で実施されたイベントである。新嵐山は町から少し距離があるので関わりづらいと感じる。

・提案２について、芽室町の子どもたちに愛着を持ってもらえるよう、バス学習などで利用してもらえればと思う。

（コーディネーター 前田 氏）

・町民との関わりについては、意見が多く出されており、継続的にこうした場を開いてほしいというのが両グループの意見である。町担当課もこの会議体での提案改善シートやアンケートなどで意見を聞いて、事業改善につなげることへの手応えを感じている。

（委員６）

・提案２について、サバイバル力を高めるためのキャンプ研修など災害対応を踏まえた体験授業も良いと感じた。

・提案４について、ドッグランは有料化すれば収益が上がると思うので、サブスク（定額制）を検討しても良いと思う。

・提案５について、新嵐山だけはなく、町内の飲食店も巻き込みながら、応援し合える仕組みがあると良い。

（コーディネーター 前田 氏）

・町にこれをやれではなく、自分たちで利用する仕組みを町と協力して出来ないかという意見をされていた（年1回は新嵐山を利用しようキャンペーンなど）。

（委員７）

・様々な意見が出されてきたので、どのようにまとめるのかと思っていた。意見をまとめるのは大変だったと思う。

（コーディネーター 前田 氏）

・具体的な自己体験を通しての提案を多くされていると感じている。

（委員８）

・提案１について、メインターゲットを明確にするというのは、当初から意見が出されており、その通りと思う。

現在、多くのお客さまが来て、稼げるポイントであることを踏まえ、キャンプ・グランピングのお客さま、スキーのお客さまというように設定した方が良いのではないか。

　一方で、展望台や子どもの教育、町民のレクリエーションなど、様々なターゲットが出されており、100人が100通りの使い方があっても良いかなと感じた。

・ターゲットと併せて重要なのが地域の定義。農村地帯と言われる場所は、新嵐山以外にもある。稼げる、魅力ある場所として考えていくのか、芽室全体の中で新嵐山を中心に考えていくのか、農業の町としての新嵐山を考えていくのか。

・スキーヤーにとって全国的なカテゴリーがある。ドッグランにもコミュニティがある。それらに働きかけること。資源別のアプローチ、誘客アプローチは重要である。

（コーディネーター 前田 氏）

・これまで町全体として、新嵐山をどう位置づけるのかという視点やマーケティングからの意見をされていたと思う。

・提案１にメインターゲットを明確にすると記載しているので、町民ありきの観光施設なのか、町外の人をメインにしつつ、その利益を町民がもらうのか。この後、議論したいと思う。

（委員９）

・委員の意見をなるべく生かそうとする配慮と思うが、記載内容の調整、修正は必要と感じた。

・100人いれば100人の考え方があって、町が関わっている施設なので、マーケティングの話を突き詰める必要があるのか。ターゲットはこれだ！という感じにしなくても良いのではと感じた。

・一方で、公金をどこまで投入して、赤字を減らすか。どこまでの収益化を目指すのか。ここを突き詰めていかないと運営側は困ると思う。

・今回の提案素案も上手くまとめているが、こちらを立てるとこちらが立たないような、細かい部分での矛盾も多い。この提案書を受け取った町は困らないか心配である。

（町担当者）

・課題解決に向けたヒントとなる取り組みも含まれていると感じている。また、地域を区切ったターゲッティングなど町や運営会社が考えていない発想も意見として多く出されている。

・どこまで税金を投入するかという点では、運営会社におけるターゲットは、マーケティングの観点から十勝管内のこの層というようにもっと絞り込んでいる。その上で、町としては如何に税金投入を少なくするかという視点で運営会社には稼げる部分は稼いでもらう。ただし、公園要素の部分などでレクリエーション（余暇活動）を楽しむために利用される方から利用料金を頂くことはできないので、その部分には税金投入していきたいというのが、町の考えである。

（コーディネーター 前田 氏）

・前回議論した宿泊料について、税金を投入すれば安価にすることは可能であるが、それが町民にとってのメリットになるかは別問題である。ガンガン儲けるべきだという意見と町民にはできるだけ無料の施設にしてほしいという２つの思いがある。

（委員１０）

・展望台までの登山道が荒れている。林道には車が通行する。人と機械の動線をしっかり踏まえ整備すべきである。また、車道（林道）を歩かせるのは危険と感じている。

（コーディネーター 前田 氏）

・色々なことを新たにやることは良いが、散策路など元々あるものをしっかり管理してほしいと初めから意見されていた。

（町担当者）

・散策路や遊歩道（登山道）は、これまで積極的な投資ができておらず、課題認識はしている。なお、遊歩道については、管理する農林課とも協議を継続していく。

（委員１１）

・自身のオンライン試験に向け、落ち着いた環境で受験したいと考え、新嵐山のホームページを確認し、予約しようと思ったが、Wi－Fi環境が悪い（ロビー以外、各部屋は使用不可）ため、宿泊は諦めた。今の時代、仕事など多様な利用の仕方が増えていく中で、ネット環境が整っていないのは致命傷である。リフト改修に比べれば、1回目の会議で意見した手摺りの設置同様対応できる部分だと思うので検討してほしい。

・自分たちも積極的に新嵐山を利用しながら、良い部分や悪い部分を伝えていければと思う。

・芽室駅には、鉄オタが来るので新嵐山のパンフレットを置くのはどうか。また、ホームページのアクティビティ紹介（例：ファットバイクダウンヒル）などは、写真ではなく動画を載せる方が面白さも伝わると思う。

（コーディネーター 前田 氏）

・手摺り設置など福祉的配慮や散策路の件は、利用目的の多様化という観点から提案２に加えるようしたい。

・皆さんから意見いただいた個別のアイデアは、機会と予算があれば実現できると思う。

・残りの時間を使って、もう少し大きな視点で「町民が新嵐山を本当はどう思っているのか。」について皆さんに聞いてみたい。

町はできるだけ税金の投入を少なくしたい。赤字が増えると皆さんの税金を更に使わなければならない。そのため、赤字を減らすためにドッグランやグランピングなど新たな取り組みを実施している。第３セクターである運営会社も赤字を減らすことを目標としている。しかし、町民は、第３セクターの経理状況をしっかりと見ている訳ではない状況で、次々と新たな取り組みが進んでおり、その中でターゲットも誤解が解けないまま進んでいると感じた。

ただし、第1回会議から一貫して新嵐山を無くした方が良いという委員は、誰もいなかった。新嵐山が無くなっては困る、新嵐山は大事だという意見であり、そこが公金投入の意義になると思った。

ここで皆さんに確認したい。「新嵐山は観光施設である」または「町民の施設を観光客に利用してもらっている（分け与えている）」どちらの感覚が強いか。観光メインか町民メインか、どちらに重きを置いているか確認したい。

※結果10名中、観光の施設：1、町民の施設：8、十勝の施設:1

　それでは、町民の施設と思っている人に確認したい。町民の施設であるならば、何が調子悪いと思うか。足りない部分は何か。これまでの会議を通して感じたことを発言いただきたい。

（委員自由討議）

・町民のアクセス、行きたくても行けない人（高齢者）がいること。手摺りがなくて歩きづらいといった公共施設としての位置づけ。

・自分が住む地域の高齢者が新嵐山で入浴したいが、移動手段が無いという話を聞く。

（コーディネーター 前田 氏）

・いま町民の施設と思っている人が不満に思っていることを改善できれば、何をしても良い施設になると思う。観光に力を入れすぎるが故に、町民の不満が解消されないまま、進んでいるので苛立ちを感じていると思う。何故なら不満に思っている方は町民の施設と思っているからである。そこで、町民の施設と答えた委員に何が調子悪いのかを発言いただき、町に伝えたい。

（委員８）

・町民を置いてきぼりにしたまま、観光に力を入れても町民の幸せとは言えない。

（委員１０）

・前回の事例発表にあった小菅村は、住民が危機意識を持って取り組んでいたが、芽室町は農業が盛んであり、住民もそこまでの危機意識はない。したがって、自分たちの宝を維持するための多少の負担はやむを得ないと思う。

（委員８）

・観光メインか町民メインか、はっきり区別するのは難しいと思う。

（コーディネーター 前田 氏）

・それでは、［観光：町民］の割合で確認したい。

※結果、町民の施設と答えた8名中、70%:30% 3、80%：20% 5

・もう一つ確認したい。町民が思う調子が悪い部分に公金投入することは構わないか。

　　※問題ないと回答。

　自分たちの税金が町民以外の部分ばかりに使われることに憤りを感じていると思う。しかし、新嵐山は大切な施設であるから、施設を維持するために公金投入することは構わない。その上で町担当者から説明があったように、公金投入を少なくするために観光部分で稼ぐなら、更に良いですよね。観光で儲けて、施設を充実させ、且つ公金割合が減れば最高ですよね。

　ちなみに、この点について、観光メインと答えた委員に確認したい。

（委員３）

・町民だけで施設を維持（収支プラス）することは無理である。そのため、観光に力を入れて、公金投入を少なくする方が良いと考え、観光をメインにすべきと考えた。

（コーディネーター 前田 氏）

・メインのターゲットについて確認したい。ターゲットを明確する場合、例えば、スキー利用者、ドッグラン利用者などが考えられるが、まず、譲れないのは「町民」をターゲットから外してはいけないという点。これはみなさんの共通意見である。その他、メインターゲットについて意見はありませんか。

（委員７）

・B級グルメのような感じを目指すのはどうか。この辺の地域であれば、本格的にスキーをするなら富良野やサホロだと思うし、お風呂でゆっくりするなら十勝川温泉である。B級にはB級なりに狙う層があると思う。第1回目の施設見学でもキャンプ場のターゲットは初心者向けと話していたので、そこに絞ることは良いと思う。

（委員９）

・いくら観光に力を入れても、近隣の大型リゾート施設、一流には勝てない。勝ち目があるなら税金投入しても良いと思うが、その点を疑問に感じている人もいると思う。

・観光にシフトするにしても、新嵐山独自でできること、新嵐山の強みを活かしたものであれば税金投入も理解されると思う。

（委員８）

・以前の会議で外資のホテルを誘致してはどうかという意見をしたが、みなさん反対であった。外国人がたくさん来ると町が荒廃するといった悪いイメージであったり、観光との向き合い方や外国人との付き合い方が自分たちなりにわからないままの状況と思う。

・十勝管内や北海道内の初心者やファミリーをターゲットにする感じで楽しんでもらう、ファミリアな、ラフな感じの新嵐山で良いのではないか。

以上